

8月22日(水)2018年
新潟日報

Otona

おとなプラス



方丈記私記の作品から

- 上段左から「みずたどり」、「方丈記『試機』」、「越後妻有 コラボ甘味屋台」、「つくも神の家」、「A SHELTER OF THE DIGITAL」、「方丈の屋根」
- 中段左から「多孔体: 2畳C4.5畳」、「ライトハウス 4.0 越後妻有で軽やかに暮らす」、「狗鷲庵」、「羊の美容室」、「十日町 ひと夏の設計事務所」、「パフォーマンスの秘密 KNOW YOURSELF」
- 下段左から「ASOBI BOX」、「Karaoke&Humankind」、「そば処 割過亭」、「TRANSFIGURATION HOUSE」、「DRAPE HOUSE」、「SHIFTING STRINGS」



■大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ

自然と共存を意識

■多孔体:2畳C4.5畳

四畳半の空間の中に二畳の和室が埋め込まれた入れ子の構成という個性的な空間を演出したのは、工学院大教授で建築家の藤木隆明さん(59)だ。「20世紀のメインの建築は、温度や明るさをコントロールしようという考えでやってきた。結果的に



木村梨花さん(24)＝左＝は「初めて芸術祭に参加した。町を挙げて盛り上がっている感じがとてもいい」と話した



藤木隆明さん

膨大な人工エネルギーが必要になり、地球環境問題の一因となった」と分析。建築物が一個の生命体のように外界とつながり、自然と共存するような在り方をすれば、それらを乗り越えられるのでは?という考えで、この作品を作ったと話した。

実際に入って見るとそれを実感できる仕掛けがあるのだが、それは訪れてからのお楽しみだ。新潟市から来ていた会社員の女性3人組は抹茶と和菓子を楽しみながら、そのサブライズに「面白い」と顔をほころばせた。